



WASEDA

MECHANICAL

ENGINEERING

Newsletter

第34号

OCT. 2010

2010年(平成22年)10月1日発行

2010年度 機友会総会の報告

5月16日（土）機友会総会が西早稲田キャンパスの理工学部55号館大会議室で開催されました。今回は総会の前に幹事会が招集され、新理事として真下進氏（S40年卒）と佐山正巳氏（S49年卒）が選任されました。続いて行われた理事会では新しい役員選挙が行われ3期6年勤められた杉島和三郎会長の退任のあと、早稲田大学基幹理工学部長の河合素直教授を新会長に選出しました。総会は矢吹捷一副会長の総合司会で進められました。杉島会長の開会の挨拶のあと、杉島会長の司会のもとに総会の議事進行がなされました。まず、会計担当の荻須吉洋理事による「2009年度事業報告」「2009年度決算報告」の説明がありました。収入の部では会費収入は減額になりましたが、前年度繰越金を含め前年度並みとなりました。雑収入は今期より行事の会費をそのまま計上することに変更し、前期よりも大きな額

になっております。一方、支出の部では行事活動費、奨学金などが予算を上回りましたが、諸経費の切り詰めで、総額では予算内に納めることができました。

監査報告は、瀬在昭弘理事が内野延明監事の代行で行い、問題なく承認されました。「2010年度事業計画（案）」「2010年度予算（案）」は例年通りの活動項目ですが、来年に控えた機友会100周年記念事業のための特別枠（200万円）を設けたことと、学生への支援をより厚くしようとこの面での予算を増やしております。

これら2案とも承認されました。決算報告を次のページに示します。

最後に役員改選では、杉島会長の退任と河合新会長の就任が報告され、お二人よりそれぞれご挨拶がありました。

ここで総会の議事が終わり、他の行事に移りました。最初に「機友会論文賞」の授与および受賞者の発表が石太郎理事の司会進行でなされ、木戸

君、伊藤君の内容説明がありました。

受賞者は次の方々でした。

努力賞：谷川 雄介
『エコランマシンXenosの改造について』

努力賞：木戸 康平
『リアルシーティング』

努力賞：伊藤 裕樹



左側より杉島前会長、伊藤君、木戸君、河合新会長

『航空機力学の人力飛行機への応用に関する考察』

参加賞：金子 洗太

『C++を用いた、有限要素法による流体の数値計算』

参加賞：中田 圭

『EXCEL VBAによる株式売買判断プログラム』

参加賞：山野 俊明

『川崎ロボット競技会用ロボットの製作』

次いで、総会恒例の講演はオリエンパス工業の伊藤秀雄氏（S59年卒）から「カプセル内視鏡の現状と将来」と題



新理事 左から真下進氏、佐山正巳氏

CONTENTS

2010年度 機友会総会の報告	1~2
会長退任のご挨拶	3
会長就任にあたって	4
オリエンテーション	5
新任教員のご挨拶	6
奥村敦史先生の思い出話	7~8
機友会トピックス サポート費 会費納入の注意点	9
イベントのお知らせ 会員登録	10

して興味深いお話を聴くことが出来ました。(下記の記事参照)。

懇親会は56号館地下の生協のカフェテリアで130名余が集まり、大石則忠・青葉発両副会長司会のもとオークションなどの催しもあり、例年にも増して

2009年度 決算報告

収入の部

と賑やかに歓談が持たれました。

ここで、5年間にわたり事務局を引っ張って頂いた瀬谷丞氏の退任挨拶がありました。最後に小澤勝氏（S35年卒）と今年からは学生会員も加わっての音頭で恒例の校歌を斉唱し、閉会となりました。

追伸

事務局から瀬谷さんへのお礼のことば

瀬谷さんは本来の仕事をしていただいたことはもちろんのこと、その他に同期の40年卒の方々に機友会の活動を広めて頂きました。誠にありがとうございました。

貸借対照表

2010年3月31日現在

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
新宿北郵便局	6,831,786	機友会基金	6,325,798
郵便振替分	2,314,620	繰越金	4,988,349
三菱東京UFJ銀行新宿通支店	1,360,152	預り金 入金済会費	7,190,188
りそな銀行新宿支店	2,714,843		
みずほ銀行新宿西口支店	5,218,054		
現金	64,880		
合 計	18,504,335	-	18,504,335

支出の部

項目	予算	2009年度決算額	2008年度決算額	対予算 差異	備考
事業費	4,050,000	4,020,490	3,408,550	29,510	
ニュースレター発行費	2,500,000	2,277,599	2,412,364	-222,401	31・32号作成、発送
学生支援費	450,000	329,600	355,500	-120,400	機会会サークル、オリエンテーション
奨学金	100,000	119,000	30,000	△19,000	論文賞・奨励賞
総会・会議費	500,000	493,504	344,771	6,496	総会、理事会、各委員会。
行事・活動費	500,000	800,787	265,915	△300,787	ゴルフコンペ、バドミントンディスカッション、見学会
事務運営費	3,050,000	2,571,475	2,926,204	-478,525	
人件費	2,000,000	1,835,350	1,968,450	-164,650	
交通費	350,000	288,400	346,200	-51,600	
通信費	200,000	151,394	211,715	-48,606	
事務用品・印刷費	300,000	87,241	271,424	212,759	
慶弔費	50,000	0	35,260	50,000	
データベース管理費	20,000	0	6,480	20,000	
振込み手数料	100,000	81,260	86,675	-18,740	
雑費	30,000	127,830	0	△97,830	会費返却（手数料込み）
支出計	7,100,000	6,591,965	6,334,754	508,035	
総額					
緑越金	4,353,914	4,988,349	4,390,218		
合計	11,453,914	11,580,314	10,724,972		



総会・会場内

講演「カプセル内視鏡の現状と将来」について

菅野研 修士1年 鶴田功一

近年、話題となっているカプセル内視鏡の現状と将来について講演があり、大変良い機会であるため聴講させて頂いた。今回の講演では、内視鏡の歴史から、現状のカプセル内視鏡に至るまでの道のり、さらにはカプセル内視鏡の将来の展望について主に講演された。オリンパスのカプセル内視鏡は、現時点で小腸を対象に開発されているが、今後は食道、胃、大腸等の消化器官へ適応拡大するべく、現在の受動型から、磁気を利用した全方位誘導シス

テムにより体内の行きたい場所に移動することが可能な誘導型カプセル内視鏡への開発を進めている。さらに将来は、薬液放出機構などを搭載した診断治療型カプセル内視鏡の開発を目標に掲げている。このようにカプセル内視鏡技術が発達していけば、現在の侵襲性が高い手術から身体に優しい低侵襲な診断治療が可能となる時代がそう遠くない将来に実現するのではないかと思う。カプセル内視鏡により診断治療が行えるようになれば、現在の治療手

段に改革を引き起こすことができるだろう。将来、カプセル内視鏡が低侵襲な診断、治療の代名詞となることを期待してやまない。

最後に、最新のカプセル内視鏡の現状と将来について講演してくださった伊藤さんに厚くお礼申し上げたい。
追伸

伊藤秀雄氏の御子息は現在機械科学・航空学科の3年（浅川ゼミ）に在籍していることも、機友会の皆様にご報告させていただきます。

会長退任のご挨拶

早稲田機友会100周年記念事業の成功を祈念して

前早稲田機友会会長 杉島 和三郎

2010年（平成22）5月の総会で、私の会長退任と河合素直基幹理工学部長の次期会長就任がご承認されました。これも一重に会員各位のご支援と、理事役員や事務局員の献身的なご努力によるもので心からお礼を申し上げます。

さて機友会のお手伝いをする契機となったのは、私が三菱重工勤務時代に機械学会の理事などを拝命し、同時期にクラスメートの土屋喜一教授が機械学会で活躍され、1993年（平成5）には学会長に就任されて共に活動をしたことから始まりました。

その当時の機友会は社会変化を受けて活性化のニーズが高まった時で、齊藤孟教授が1991年（平成3）に会長に就任され、土屋教授の推薦で幹事を仰せつかり、梅津教授計画のINOVATION94による組織整備、名簿発行、ニュースレター（WME）の復刊がされ、1994年（平成6）の井口信洋教授の会長の下では浅学ながら副会長を拝命しました。

1994年（平成6）の林郁彦教授会長時にも副会長を留任、1996年（平成8）の田島清瀬教授会長時には相談役となり、山根、土屋、中澤、山口各教授の歴代会長の下で微力ながら活動に参画させて頂きました。2003年（平成15）10月の機友会創立90周年の式典と、深町副会長のリーダーによる90周年記念誌発刊で感激に満ったことが忘れられません。

そんな折に、山口会長から次期会長就任の意向打診を頂きましたが、歴代会長が機械工学科教授で大学側との連携が企業系では困難なことや、相談役からの復帰は不自然など

として固辞を続けていました。しかし総会が近づき山口教授のご説得で止むを得ず拝命することとし、責任の重大さに緊張しながら就任したのは2004年（平成16）の総会でした。

その後、理工学部の3学部再編、大学125周年記念事業、理工学部100周年記念事業、東京女子医大との医工融合などがあり、機友会もそれらを受けて学生支援のサークル活動支援、優秀業績賞授与、卒業生による就職パネルディスカッションなどの開催を続けました。

またOB会員サービスとして総会開催の活性化、ホームカミングデーの機友会室設置、モビリティーシンポジウムやゴルフ会などの支援のほか、現役教授によるイブニングセミナーや企業見学会の年2回開催をスタートし、併せて必ず懇親会を開催して大学、学生、OBとの交流を深めることに努力をしました。

その間、理事役員のご協力で従来に例のない3期6年間の会長職を務めさせて頂きましたが、個人情報保護法と関連してOB会員名簿把握の困難性から、会費納入率の低下傾向が見られ申し訳なく思っています。そのため会費制度の見直しやサポート費制度を創設し、多くの方からご寄付を頂くことができ、ご芳志に応える活動をすることできました。

また大学125周年記念事業の募金活動では会員から11,597,500円を、理工学100周年でも多額のご寄付を頂戴しましたが、いずれ

も理工系各学科の最高額で総長や学部長から機友会にお礼の書状を頂くことができ、大学を想う会員のお志に深くお礼を申し上げます。

しかし会費納入促進の基礎になる年度別や研究室別の幹事網や、電子メール連絡網の整備は未達成のまま次期理事会に引継ぎをお願いし申し訳なく思っています。しかし2008年（平成20）に100周年を迎えた理工学部機械工学科と、2013年（平成25）に100周年を迎える機友会が、河合会長の下で2011年（平成23）秋に、大学と機友会が合同で記念式典を開催される計画が進められており、その成功を祈念したいと思います。

最後になりますが、機友会をお手伝いさせて頂いた約15年間は、ニュースレターの1994年の復刊号から2010年のNo33号に凝縮されており、永い機友会の歴史の一齣を担った感慨と、ご指導とご交流を頂いた会員に改めてお礼を申し上げ、機友会が益々発展することをお願いして退任の挨拶とします。（昭和27年卒）



新・旧会長

会長就任にあたって

理工学術院教授 河合 素直

杉島前会長の後を受け、会長を仰せつかりました河合素直です。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、本機友会のように卒業生、在校生等からなる組織（早稲田大学校友会はさらに大組織である）では、その構成員の数が非常に大きく、しかも広い世代にわたっており、組織の構成員が組織への共通の帰属意識をもつということが大変難しいという悩みをもつと感じています。すなわち、組織と構成員との間の接点をどこに置くかということを考えてみても、構成員の関心さらには組織への期待が非常に広いスペクトルをもつということです。何故そのようにならざるを得ないかということを考えてみると、過去を懐かしく振り返る時間的にも精神的にも余裕をもつことができるようになった世代、社会のいろいろな最前線でひたすら前向きに突き進んでいる世代、社会の大きな流れが大きく変わりつつあることを感覚的に捉え将来への明るい展望をもちにくい世代（最近の卒業生は、いわゆるバブルが弾けた後の時代に成長し、高度成長というような右肩上がりという「良き時代（？）」を経験していない世代）等々からなることが一番大きな要因となるでしょう。そこで、機友会はいかなる面で接点をもち一層の活性化を図るべきかと考えることから、改めて取り組むことが求められることになります。ここでは、課題を提起し、今までの諸活動の活性化にとどまらず、課題の解決のために時間をかけいろいろな試行を進めていきたいと申し上げるに止めさせていただくことにしたいと思います。

次に、当面機友会が取り組まなければならぬ課題について触れさせていただきます。杉島前会長時代から検討が進められてきた。「機械工学科創設100周年・機友会創設100周年」の記念式典を来年（2011年）11月に開催することを理事会で決定しておりますので、皆様方のご協力を戴きながら、意味のある行事として実現したいと考えております。100周年という節目で式典を挙行する意味でありますが、過去100年を振り返ることは大変重要ですが、これから100年の展望を全員で考えるということに大きな意味を置きたいと考えます。それは次のような時代背景があると考えるからです。「機械工学」はこの100年、輝かしい発展を遂げてきたということができますが、これから100年に果たすべき「機械工学」あるいは「工学技術」の役割、さらには学問としての「機械工学」の展開については、時代状況の大きな変化の中で必ずしも共通の展望をもつことが容易ではないからであります。一寸脱線することをお許しいただき、社会における「工学」（「機械工学」も同様と考えています）の地位低下について触れておきます（巷では「工学技術」ではなく「科学技術」が専ら用いられています）。いわゆる「豊かな社会」の実現に工学技術は大きく貢献してきていますが、このことをきちんと理解している人々が少なくなってきており、しかも「地球温暖化ガス25%削減」という鳩山前首相の発言に代表されるように（京都議定書による6%削

減すらクリアされていない状況の中で「25%削減」を世界に発信していることがそもそもおかしく、さらに「25%削減」については現実には海外から排出権を購入して一部をクリアしようとするというのですから、オカシナ国になってきたと思わざるを得ません）、工学技術として現状の下で可能のことと不可能なこととの区別ができるないという驚くべき状況であり、工学技術さらには機械工学の復権を今こそ叫ばなければならぬと思っているところだからです。

そこで、機械工学の復権を目指す第一歩を踏み出したいと思います。理工再編で、ご承知のように「機械科学・航空学科」と「総合機械工学科」に2学科としてスタートしたこともあり、まずはこの両学科からこれから100年という将来展望を宣言していただくということを、この記念式典の最も重要な行事と考えたいと思っています。その上で、さらに議論を拡げていくことに機友会が貢献できればと考えています。

【略歴】

1940年生まれ。1964年3月早稲田大学第一理工学部機械工学科卒業。この9月に基幹理工学部長の職から解放される。高橋利衛先生・町山忠弘先生から教えを受け、制御工学・熟システムのダイナミクスに関する教育・研究に携わっている。



理工キャンパスの風景

オリエンテーション とは・・・

総合機械工学科の1年生、基幹理工学部1年生（この中に機械科学・航空学科を選択する学生さんが居ます）を対象とした、入学後初めての団体行動です。学生間の交流を深めるとともに、教員から研究室で行っている最新の研究内容を聞き、ディスカッションすることで、意欲を向上させる機会となっていました毎年、大学施設の追分セミナーハウスで行っています。機友会では皆様方の会費から支援しています。

2010年度 総合機械工学科 1年生オリエンテーション報告

総合機械工学科

助手 渡辺 貴文

6月26日（土）、27日（日）、例年の通り、総合機械工学科1年生オリエンテーションを軽井沢セミナーハウスで実施した。その内容について以下に報告させていただく。なお、参加人数は本学科の入学者数150名の内137名、また、教員・助手およびTAが29名であった。

26日（土）の朝、バスにて西早稲田（旧大久保）キャンパスを出発した。セミナーハウス到着後、昼食を経て、各バス対抗のスポーツ大会が催された。学生はサッカー、バスケットボール、ソフトボール、テニスの各種目に分かれ、汗を流した。梅雨時期の実施ということもあり荒天が懸念されたが、皆の想いが天に届いたのか、降り続いている雨は次第に弱まり、予定通りスポーツ大会を実施することが出来た。優勝チームには豪華賞品として早稲田大学クラッチバッグおよ

び賞状が贈呈された。夕食後、4部屋に分かれて、本学科教員によるオリエンテーションが行われた。各教員からは研究の最前線からの話題提供や、本学科で学びエンジニアや研究者として社会に出るための心構えなどが説かれ、学生はメモを取りながら熱心に耳を傾けていた。引き続いて同会場で懇親会が行われ、教員やTA、学生らが、菓子やジュースを囲み、歓談を交えながら交流を深めた。翌27日（日）は、集合写真を撮った後、軽井沢駅近傍のアウトレットモールにて昼食やショッピングなどの自由時間を過ごした。その後バスは新宿駅西口に向かい、16時過ぎに解散となった。

参加した学生からは、どのような研究が行われているのか知ることが出来てよかったです、友人が増えた、楽しかったなどの評判が聞かれ、オリエンテーション

の目的が達成されたのではないかと思う。入学して間もないこの時期に、教員やTAと学生が一つの場を共有し、様々なことを語り合えたことは、学生諸君にとって貴重な経験となったことであろう。本オリエンテーションが、本学科において夢の実現に向け活躍するためのきっかけとなれば、望外の喜びである。

最後に、全日程を通して大きな事故やトラブルが生じず無事に開催することができ、協力頂いた先生方や、助手、TAの方々及び、補助金を提供された機友会様に厚くお礼を申し上げる次第である。



参加者の集合写真

2010年度 基幹理工学部 1年生オリエンテーション報告

基幹理工学部 機械科学・航空学科 助手 後藤尚志

基幹理工学部では、1年生に対して2年進学時における進学振り分けに向けた学科の説明会、学生同士および学生と教員との交流を目的としたオリエンテーションを信濃追分セミナーハウスにて行っており、本年度で第4回目を迎えた。本年度は、2010年6月5日(土)～6日(日)(A日程、基幹のクラス1～4対象)、6月19日(土)～20日(日)(B日程、基幹のクラス5～7対象)の両日にて開催した。参加した学生数は、基幹理工学部の入学者数545名中501名(A日程289名、B日程212名)、また、参加した教員、助手・助教、職員及びTAは65名であった。

オリエンテーションのおおまかな内容は以下の通りである。まず、セミナーハウスにバスで到着後に運動場にてトーナメント制のクラス対抗の綱引き大会が行われた。決勝戦は大盛り上がりで、最後にはクラスに関係なく大人数の綱引き合戦となっていた。優勝したクラスには優勝賞品としてオリジナルボールペンが贈

呈された。夜には、教員による学科の説明会(計6学科、数学科、応用数理学科、機械科学・航空学科、電子光システム工学科、情報理工学科、表現工学科)および新入生アドバイザによる実験室等の説明会が実施された。学生たちは将来の自分の進路にも関わってくることもあるって、真剣なまなざしで聞いており、質疑応答だけでなくその後行われた懇親会においても多数の質問がなされていた。懇親会では、軽食・お菓子およびソフトドリンクが配布され、教員と学生の親睦が深められていた。翌日は、朝から天候に恵まれスポーツ大会(サッカー、バスケットボール、テニス、ソフトボール、卓球)が開催された。

サッカー、バスケットボールおよびソフトボールはチーム戦が行われ、優勝チームには賞状が贈られた。

帰りのバスの中で



白熱した綱引き大会



真剣に説明会に臨む学生たち

行った非公式なアンケートによると、機械科学・航空学科志望の学生数は40名中13名で、2位の表現工学科、電子光工学科の7名を大きく引き離し1位であった。また、オリエンテーションに参加して「新しい仲間ができた」や「教員と話をする機会がありよかったです」など肯定的な感想が多かった。

本年度は昨年度より遅い6月開催となったため、梅雨による雨の心配がされたが、両日とも日中は天候に恵まれ、また、大きな事故、怪我等もなく、本年度も無事に開催することができた。この場をお借りして、甲藤先生、総務課高野様、数学科連絡事務室稻葉様、補助金2万5千円を頂いた機友会様、参加して頂いた先生方、職員、TAの皆さんに深く感謝致します。

ふるさと早稲田大学に戻って

共同原子力専攻 特任教授 師岡 憲一



2010年4月に新設された 共同原子力専攻に赴任いたしました。私は、早稲田高等学院、機械工学科、修士そして博士と 早稲田に14年おりまして、その後 原子力の“げ”の字も知らないで、東芝に入社しました。入社時の上長が 機械工学科卒の香川達雄さん（現 女子栄養大学理事長）で、人柄、面倒見の良さ、研究へのアグレッシブさ、に感心し、“早稲田大学はすごい”と感じたのを思い出します。その後

30数年 原子力の開発研究 一筋、早稲田大学に原子力の大学院ができるということで、運よくふるさと早稲田大学に戻ってきました。ふるさと早稲田大学に戻って感じたのは“うれしい”という一言です。オリーブさんがいる、キャンパスの木が大きくなったり、西早稲田駅ができた、なつかしいグランドがなくなった、昔の同僚もいるし、でも 機械工学科が2つの学科に分かれてしまった。

これからは、健康に留意して、この研究をやると何に役立つかを教えながら 技術ばかりでなく 倫理観（ルールを守る、約束を破らない、嘘をつかない）をもった そして 夢を追える学生を育成したいと思っています。皆さんよろしくお願ひいたします。

母校への帰還と次世代へのリフトオフ

高等研究所 准教授 鈴木 進補

1998年に材料加工の分野（本村研）で博士号をいただきました。その後、ドイツのベルリン工科大学およびハンマイトナー研究所 研究員、大阪大学准教授を経て、今年4月に本学高等研究所テニュアトラック准教授として着任しました。現在、機械科学・航空学科にて材料および宇宙環境利用に関連した講義、研究を行っています。

12年ぶりに母校に戻ってきて、良き伝統を残しながらも発展的にダイナミックな変化をし続けているという印象を持ちました。特に、多くの教員、学生が航空宇宙を主要な課題の一つとして取り組んでいる点が、私の学生時代と大きな違いではないかと思います。

私自身、学生時代より宇宙開発・利用に強い関心を持っておりましたが、当時の日本の宇宙開発・利用分野は材料加工の専門家にとっては非常に狭き

門でした。そこで、博士号取得後は、宇宙での材料実験で著名なドイツのFrohberg教授の門戸をたたき、一緒にロシアの人工衛星Fotonを利用した材料実験をさせてもらいました。自然対流の影響が無い微小重力空間で溶融金属に関する拡散係数の測定を行い、測定技術の向上や、原子の運動を理解する手がかりとなる高精度の拡散データの取得などの成果を上げることができました。

現在では、日本でも「結晶成長」、「マランゴニ対流」のような材料加工あるいはそれに強く関連したテーマが「きぼう」の主要な理工学系実験として実施され、材料加工分野の専門家でも宇宙利用においての活躍の場が広がっています。

宇宙関連のイベントに参加すると、学生や子供たちの好奇心のエネルギー

鈴木進補先生は早稲田大学高等研究所所属で機械科学・航空学科の授業をはば広く担当しているテニュア・トラックプログラムの中で着任された、准教授です。
早稲田大学高等研究所は2006年に設置されました。



左端：本人

に圧倒されてしまいます。一方で「学生や子供たちの理科離れ」という社会問題もよく耳にします。本来理科への関心が強い人たちの意欲をいかに成長に結びつけるか、彼らの意欲を削ぐものは何かを常に考えながら大学での教育活動を行っていきたいと思います。今後とも、機友会会員の皆様からのご支援、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願ひいたします。

奥村 敦史先生 の思い出話



奥村先生は昭和16年のご卒業、現在93歳で、お元気にお過ごしです。以下の文章は先生が、五月会の方々のために書かれたものですが、お許しを得て、ニュースレターに掲載させていただきました。(編集部)

—五月会の諸君に巡り合うまでの経過—

奥村 敦史 (早稲田大学名誉教授)

思えばすでに60年近くも以前の事、第二理工学部機械工学科、第一回の卒業生である諸君に小生が最初に何を講義したかも、いまは謳げにしか思い出せません。確かグランド坂寄りの教室で、夜の第一限は何時から始まったのか? ……クラスの半数(?)の諸君は、勤務を済ませてからの通学で、略全員が揃うのは二时限以降であったようだ。たしか中山泰喜君は鉄研(?)の仕事で、教室に出席されるのは、何時も遅がちだったようだ。

当時たしか二理の機械工学科の主任は沖巖先生で、その下で、たしか(?)和田稻苗先生と小生が主として諸君の勉学のお手伝いをすることになっていたが、今思うと、何れだけの事が出来たのか、極めて疑問。そもそも小生が諸君にまみえる事になるまでの経過を、恐らく諸君にお話できる最後の機会であるこの紙面で、以下に簡単に記させて頂こう:-

昭和16年、小生は伊原貞敏教授の下、実質的には村上正海先生(当時教務補助)の懇切な御指導の下で卒論“回転する弾性梁の振動に関する問題”に没頭していた。村上先生御自身は振動学で著名な東大の妹沢克雄教授の御指導のもとで、東大の航空研究所において飛行機の胴体の軸圧下の座屈の研究を進めておられたが、早大の機械工学科では講義の他に“応用力学研究会”と名乗る学生主体の自主ゼミナールを、御多忙の中をモリードして下さっていた。諸君も御存知(故)高橋利衛先生は、小生の2年先輩で、この自主ゼミ

の創始者でもあり、小生は高橋先輩の勧誘によりこのゼミに導かれた。新入の小生共が6名ほどだった。このゼミは小平吉男著の“物理数学”をテキストとした輪講形式で、村上先生始め相互の熾烈なディスカッション。小生はこのゼミで、初めて“解析力学的な文献を如何に読むべきか?”を教えられた。

12月8日の開戦で、同年内に繰り上げ卒業となり、卒論では予定していたモデル実験はできなかったが解析計算結果を提出。正月を迎えたのは就職先の名古屋(三菱重工名古屋航空機製作所)の合宿所。そこから1kmほどの海軍機の機体の組立工場に通い、もっぱら新入社員の職場見学を1~2週間もする内に、新入社員には次々と“赤紙”(召集令状)。小生も例外ではなく、昭和17年2月1日には陸軍東部102部隊(千葉県柏にあった航空教育隊)に二等兵として入隊。中隊の内務班に割当てられてみると、同じ内務班に4~5名の早大理工学部の馴染みの同期生がいるのには吃驚するとともに、大学での合宿の気分で、大いに気が楽になったのだった。

さんざん訓練で絞られた後、7月ごろには甲種幹部候補生となり福生の陸軍航空整備学校に送られ、また10月には航空技術将校候補の試験に合格し、水戸の陸軍飛行学校での教育をうけて、12月には陸軍航空技術中尉に任官。その後立川の陸軍航空研究所での教育をうけ、17年3月には市ヶ谷台上の大本営に隣接する陸軍航空本部の調査班に情報将校として勤務、虜獲した

米戦闘機P51の調査に、特攻基地万世や鹿屋に飛んだ事もあった。激烈な戦況を経て、昭和20年8月終戦、除隊。航空本部には本郷の親戚宅より通勤していたが、熾烈な空襲で焼滅。世田谷区松原の家内の実家に近接した家に妻子共々疎開し、ここで米軍の渡洋爆撃機B29の次々の大編隊による大空襲下を、連夜逃げ惑った末の終戦だった。

急に軍服を脱いで呆然のうちにも数日は雑事に追わされたが、妻子を抱え、これから生計を思わざるをえず、とにかく単身で会社に帰ってみることに決断。久しく御無沙汰にのみ過ごして居た伊原先生に、離京のご挨拶に、原町のお宅をお訪ねした。空襲で、かっての瀟洒な先生のお宅は無惨にも焼け落ち、御家族は疎開先で、先生お一人で自ら掘られた防空壕で暮らしておられた。その壕のほとり、周辺廃墟の大地に座し、心ばかりの食料をお届けし、手短に近況報告と離京の御挨拶をすませて辞したが、その時に頂いた励ましのお言葉と、壕生活で惨く荒れ果てた先生の後两手の記憶が、痛く心に残った。またその折に、卒論の懇切な御指導を頂いた村上先生は、陸軍幹部候補生の試験を拒否され、一兵卒としてビルマの戦線で戦死されていることも伺ったのだった(お若い奥様と幼いお嬢様を残して)。

言うまでもなく、三菱重工の名古屋航空機製作所の工場は、集中爆撃でとうに壊滅しており、小生は単身、その疎開先である三重県の鈴鹿工場に復帰。然し辿り着いてみれば、航空機工

場とは名ばかりで人陰もまばら、片隅ではそぼそと鍋釜を作っている始末。一晩“この片田舎に妻子を呼び寄せて何ができるのか？”と、とっくり思案したすえ翌朝、会社に退職願を提出し、とんぼ返りに帰京、早速に伊原先生に御報告に上がった。

あの防空壕で、先生はだまって聴いて下さったが、小生の若気の即断に呆れておられたのかも知れない。

実は三菱の鈴鹿工場からの帰路、軍務からも会社からも解放され、小生の心は単純にも、むしろさばさばしていた。戦争で中断され抑圧されていた研究意欲が、空き腹を抱えながらも、車中で強く甦ってきたのを思い出す。

東京に帰宅後も、生計の道も失ったままに、日々の雑務に追われつつも、帰ってきた貧しくも自由な生活に、折を見てはぼつぼつ、卒論の延長上のテーマを模索したりし始めていた。このような呑気さは「このままで一二年は何とか暮らしてゆけそうだ。そのうちには、何とか成るだろう」との愚かな楽観による。というのは、除隊時および三菱退社時に何がしかの手当を受け取っており、それが生来貧しい小生には、頼りになる金額と思われた。この幻想は半年後の“新円への切

り替え”で、はかなくも消え去るのだが、それは未だ知るよしもなかった。

そのうちに米軍の進駐にともない、兎角の不穏な流言などもあり、両親の疎開先であった茨木に妻子を移したり、また連れ戻したり、空襲で焼け出された親戚二人が狭い我が家に転げ込んできたりなど、混沌の日々を過ごす内に敗戦後一ヶ月余も過ぎたある日、突然に伊原先生から呼び出しが掛かった。

実は、ここまで書いてきて、小生は、はたと行き詰った。数日後に小生は早大専門部工科助教授の辞令を受け取っていたのだが、その前後の経過の記憶が、なぜか全く欠落している。特に肝心の、そのとき先生から頂いたお言葉や、小生自身の感謝と感動の記憶さえもが喪失していたことに、今さらながら気付き、懶愧に耐えない。

1945年9月末か10月の初めのある日、これも記憶に定かでないが、おそらくは伊原先生に連れられて初めて早大専門部工科に参上、新任の御挨拶をさせていただいた様に思う。機械科と航空機科の合同の研究室で、当時機械科主任教授の稻田重男先生に御挨拶し、また終戦後、小生より一足早く航空機科に就任されておられた和田稻苗先生にも紹介され、研究室の片隅に机

が与えられたことは、何とか記憶している。

かくして母校早稲田への通勤が始まり、たしか基礎力学と構造力学の科目を持たされ、雨のそぼ降る日であったか、最初の講義の時には、教室で伊原先生が小生を初対面の学生諸君に紹介して下さった。小生はゴム長でも穿いたみすばらしい姿

で、おずおずと教壇に立った。若い学生諸君の眼に、小生はどのように映ったのだろうか？

以下早大職歴簿によれば

昭和20/10/1～24/3/31

早大専門部工科助教授

同24/4/1～24/12/23

早大第一、第二理工学部講師

同24/12/24～33/3/31

早大第一、第二理工学部助教授

同33/4/1～63/3/31

早大第一、第二理工学部教授

同63/3/31

早大を定年により退職

同63/4/1

早大名誉教授（現在に至る）

以上、小生が何のような成り行きで早大理工学部の教室で諸君にまみえる事になったのかを、極めて粗筋ながら、明らかにお伝えしておきたかった。

一理とは違い諸君の多くは既に各々の専門の職場経験を有し、遠心分離機の大家も、物騒な銃砲専門家も、鉄道関係機器のベテラン、印刷関係の達人等等もおられた始末。小生は教室で、いったい何を講義したのかも、定かには思い出せず、心もとない始末ながら、永らく新宿の都庁の近くの高層ビルでの同窓会に呼んで頂き、多くの諸君から度々御心尽くしまで頂き感謝に余る次第。

ところが小生母親譲りの慢性の頭痛が歳とともに強まり、貴五月会にも欠席が続き、もはや正直のところ新宿に出ての自信も喪失。誠に申し訳ない次第で、お詫び申し上げます。

諸君方々も年齢差は大きいが、それぞれ最早かなりの御高齢と拝察、御自愛御専一になされます様祈ります



奥村先生ご夫妻と46年卒奥村研同期の方々

機友会トピックス

機友会の旗が出来ました

昭和27年卒業の杉島和三郎さんには6年間、機友会の会長を就任していただきました。

退任の折に機友会旗をご寄付していただきました。

ホームカミングデーにおいて、お披露目したいと思います。また、工場見学等イベントの時はこれを目安に集合してください。



ふれーふれー、
機友会 !!

パネルディスカッション(就職説明会)のお知らせ

就職を控えている在学生とOBパネラーとの就職への第一歩の大切なイベントです。毎年300名を超える出席者があります。

在学生の皆さん是非参加してください。

日 時 2010年12月4日(土) 13:00~16:00

場 所 57号館201教室

開 催 2011年就職担当: 総合機械工学科及び機械科学・
航空学科の3年クラス担任

:会長 河合素直教授

:副会長 浅川基男教授

共 催 機友会

サポート費のご協力有難うございました。

2010年2月以降、本年8月までに81名と3グループより総額601,000円のサポート費をご協力いただきました。誠にありがとうございました。

これまで学生の研究活動やサークル活動、オリエンテーションの補助、またOB・教員・学生を含めたイブニングサロンや見学会の支援などさまざまな形で使わさせていただいております。さらに来年の機友会100周年に向けての準備など益々の機友会発展のために役立てる所存です。

会費の入金については毎年約350名位の方々から入金していただいているが、活動の支援を継続的に続けるには大変苦しい状態ですので、うれしく思っています。

どうぞ今後とも皆様の多大なるご支援・ご協力を賜りたくお願いする次第であります。本当に有難うございました。

2010年度(上期) サポート費納入会員(敬称略)

2010.8.20現在

卒 年 氏 名	卒 年 氏 名	卒 年 氏 名	卒 年 氏 名	卒 年 氏 名	卒 年 氏 名
昭和11年 兵頭 健次	昭和27年 細井 健司	昭和31年 井上 義祐	昭和33年 桜井 治男	昭和39年 木村 博彦	昭和60年 細井 潤
昭和17年 鎌田栄太郎	昭和27年 藤嶋 信一	昭和31年 佐野修二郎	昭和33年 笹 明	昭和39年 北林 興二	昭和62年 倉井 健一
昭和18年 片岡 一雄	昭和28年 山中 旭	昭和32年 綱野 功	昭和33年 佐渡 弘一	昭和40年 瀬谷 丞	昭和63年 奥村 盛
昭和18年 白井 國男	昭和29年 小口 幸雄	昭和32年 石岡 真雄	昭和33年 高瀬 幸夫	昭和41年 矢吹 捷一	平成07年 久保 敬史
昭和21年 吉森 信夫	昭和30年 松木 郁夫	昭和32年 佐伯 俊造	昭和33年 中沢 和之	昭和42年 古庄 進	平成14年 山本晃之助
昭和21年 杉田日出雄	昭和30年 福井 郁三	昭和32年 江口 昌典	昭和33年 平岡 主行	昭和44年 岸 宏昭	元職員 佐々木洋子
昭和21年 松原 雅道	昭和30年 鈴木 孝	昭和32年 福田 尚	昭和33年 古田 利克	昭和45年 湖上 泰宏	三十五会
昭和22年 田村 献	昭和30年 渡辺 忠彦	昭和32年 伊藤 神八	昭和35年 小澤 勝	昭和46年 金子博太郎	昭和27年(一理)有志
昭和24年 片山啓次郎	昭和30年 岸 政吉	昭和32年 谷口 直三	昭和35年 小野 弘正	昭和46年 今井 健雄	地域冷暖房システム見学会時有志
昭和25年 小澤 秀夫	昭和30年 石川 吉通	昭和32年 土岐 賴彦	昭和35年 竹原 祐邦	昭和47年 小泉 安郎	
昭和26年 明城 興一	昭和30年 矢杉 正明	昭和32年 間野 健三	昭和35年 野池 敬三	昭和49年 小笠原 誠	
昭和26年 長谷川正弘	昭和31年 大野 慎	昭和33年 鶯海陽太郎	昭和35年 古谷 哲男	昭和49年 長尾 光男	
昭和26年 増田 次郎	昭和31年 清水 邦宥	昭和33年 香川 達雄	昭和35年 柳 和雄	昭和57年 野地 彦旬	
昭和27年 加藤 幸雄	昭和31年 織茂 芳三	昭和33年 樺山 亨	昭和36年 中澤 弘	昭和59年 池田美津留	
昭和27年 赤井 民幸	昭和31年 増田 昌士	昭和33年 近藤 芳夫	昭和36年 紙谷 栄人	昭和59年 高橋 秀知	

会費納入の注意点

春号(4月1日発行)・秋号(10月1日発行)のニュースレターに同封している会費納入のための郵便局の振込用紙はダイレクトメールで発送するため全員に同封されています。前回から、当年度までの納入者と昭和34年卒業生以前の方々には、サポート費と印字した振込用紙を同封しています。支援をしていただけましたら、よろしくお願ひいたします。また、下記の2点にご注意ください。

- ① 自動振込みの方は破棄してください。
- ② 住所シールに記載されている納入年度を確認して今回必要のない方は破棄してください。

以上よろしくお願ひします。

イベントのお知らせ

このページは卒業生の方々への掲示板です。同窓会等のお知らせにご利用ください。

第30回 早大モビリティシンポジウムの開催 ～30周年記念特別企画「次世代モビリティを展望する」～

本モビリティシンポジウムは、昭和56年（1981年）、斎藤 孟教授（現名誉教授）の発案により、故渡部、難波、関の3教授を追悼し、「機友会特別記念講演会」としてスタートしました。その後、一貫して自動車を中心とした新技術を取り上げて活発な討論を行うとともに、卒業生を含めた産学官の交流の場として続けてきました。

本年11月20日（土）、ちょうど30周年に当たり、記念シンポジウムを企画致しました（代表：大聖泰弘教授）。激動の時代に向けた次世代モビリティ社会を見据え、基調講演とパネルディスカッションを通じて環境・エネルギー、安全、情報通信等の将来技術を展望します。近づきましたらHP等でご案内致しますので、皆様にはお誘い合わせの上、奮ってご参加ください。
石 太郎（S42年卒）

第26回 機友会ゴルフコンペ開催のお知らせ

機友会ゴルフコンペも26回となりました。世代交代しつつあります。前回は初参加の49年卒の中谷光廣さんが優勝しました。新しい方々の参加をお待ちしています。

日 時 2010年11月12日（金）8:00 集合
場 所 川崎国際生田緑地ゴルフ場
会 費 プレー費 16,000+食事代+5,000円
会費内訳（懇親会費・賞品代・その他経費）
問合せ先 機友会
e-mail : waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp
事務局 佐々木

ホームカミングデーのお知らせ

今年は早稲田大学校友会が設立125周年を迎えます。

卒業年度が昭和36年・41年・51年・61年・平成8年の卒業・修了の方々が対象です。機友会からも別途はがきでお知らせしています。

日 時：10月17日（日）13:00～15:00

集合場所：早稲田（本部）キャンパス 7号館220教室

卒業生の皆様
これを機会に同
窓会の集りも計
画して見てはいか
がですか……



<http://www.waseda.jp/alumni/tomonsai/>

昭和32年卒業生懇親会

32年の皆様には別途e-mail・郵便等でお知らせしますが下記のとおり開催します。奮って参加してください。（開催する日時は4月と10月で、時間は毎回13時から2時間の予定）

日 時 2010年10月19日（火）13:00～
場 所 早稲田大学理工キャンパス55号館S棟
2F竹内ラウンジ
会 費 2,000円程度 酒類持込可
幹事有志 江口・石岡・石浜・大石・西野川・笹本他

会員訃報

2010年2月以降に、下記の会員の訃報についての連絡がありました。

ここに、謹んでご冥福をお祈りいたします。（敬称略）

卒 年	氏 名	逝去年月
昭和10年	旧機械 伊藤 公正	2009.10.16
昭和10年	旧機械 押田 良輝	2010.7
昭和16年	旧機械 原田 拓郎	2008.12.29
昭和16年	旧機械 堀 利之助	2009.11.12
昭和17年	旧機械 前田 稔	2009.6.25
昭和17年	旧機械 川村 治朗 (旧姓 田中)	2010.1.12
昭和17年	専 機 河原林利丸	2003.2
昭和19年	機 械 鈴木 実	2000.10

卒 年	氏 名	逝去年月
昭和24年	一機械 浅田 武夫	2006.10.6
昭和25年	機 械 石川 博	2009.
昭和25年	機 械 萬浪 光男	2004.9.13
昭和27年	二機械 小林 重一	2009.12
昭和28年	機 械 高橋 和久	2009.12
昭和28年	機 械 清野 浩	2009.3.8
昭和28年	機 械 元武 務	2010.1
昭和30年	一機械 鈴木 一也	2009.12
昭和33年	一機械 岡 岳	2009.12.19

卒 年	氏 名	逝去年月
昭和33年	二機械 栗原 淳	2010.4.14
昭和35年	杉山 仁	2009.5
昭和35年	田原 賢二	2009.12
昭和36年	二機械 宮本 省三 (旧姓 平田)	2009.5.28
昭和39年	一機械 木戸 康夫	2009.10
昭和45年	機 械 原 貞廣	2009.9.24
昭和47年	機 械 加藤 隆夫	2009.

編集後記

任期満了につき、会長が交代致しました。杉島前会長には大変お世話になりました。また新会長の河合素直教授には、これから期間、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局では、会員名簿のデータベースを管理していますが、これからは住所とともに、メールアドレスが重要な連絡先となります。会員諸氏には、事務局へ御用の節はどうぞメールでご連絡ください。そのアドレスを記録してデータベースを充実させていきたいと考えております。

今年は本当に暑い夏でしたが、本号が届くころはもう涼しくなっていることでしょう。自然の移り変わりは着実です。

（編集担当理事荻須吉洋（40年卒））

機友会事務局

月、火、木、金の10:00～17:00
伊藤、荻須、佐々木

〒169-8555

東京都新宿区大久保3-4-1
早稲田大学理工学部内55号館S棟2階
電話 03-3203-4141(大代表)内線73-5252
TEL/FAX 03-3205-9727
E-mail waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp
<http://www.kiyukai.mech.waseda.ac.jp>

WME ニュースレター 第34号
発行元 早稲田機友会編集委員会

印刷 神谷印刷株式会社
〒171-0033 東京都豊島区高田1-6-24